

## 4-2-2.奄美群島固有種アマミノクロウサギによる農作物被害の調査報告

鈴木 真理子<sup>1</sup>・大海 昌平<sup>2</sup>

### Crop damage by an endemic species, Amami rabbit in Amami-Oshima Island

SUZUKI Mariko<sup>1</sup> and OUMI Shohei<sup>2</sup>

1 : 環境省奄美野生生物保護センター\*

2 : 奄美両生類研究会

1 : *Amami Wildlife Conservation Center, Ministry of the Environment*

2 : *Amami Amphibian Research Group*

#### 要旨

奄美群島固有種であるアマミノクロウサギ (*Pentalagus furnessi*) による農作物被害が近年増加しており、実態の解明と早急な対策が求められている。本調査は、被害状況を明らかにするために、大島郡大和村のタンカン果樹園で実施した。調査の結果、アマミノクロウサギによってタンカンの樹皮食が生じていること、樹木にのぼること、農地内で被害は集中的に生じていることが明らかになった。有効な対策を講じるためには、さらにアマミノクロウサギの行動や生態、樹皮被害の季節性などを明らかにしていく必要がある。

#### はじめに

アマミノクロウサギは、奄美大島と徳之島にのみ生息する奄美群島固有種である。国の特別天然記念物及び希少野生動植物種に指定されており、環境省のレッドリストでは絶滅危惧1B類に指定されている。この背景には1970年代に奄美大島において行われた外来種であるマングース導入によるアマミノクロウサギの個体数および生息域の減少がある (WATARI et al. 2008)。2005年より本格的な駆除事業が始まり、マングースの根絶が間近になった近年ではアマミノクロウサギの個体数が回復してきたと報告されている (WATARI et al. 2013)。アマミノクロウサギによる農作物被害は、個体数の回復とともに顕在化してきた。奄美大島でのタンカンの樹皮食害は2014年ごろから複数の農家で確認されるようになった (大海 私信)。クマネズミの歯型よりも明らかに大きく深い食痕であることから、アマミノクロウサギによるものだとされていたが、夜行性であるため確認はされていなかった。希少種が農作物被害を起こしている場合、農業従事者と野生動物の軋轢がひどくなることが指摘されている

---

\*筆頭著者は2019年7月まで、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室に所属

(SHACKELFORD et al. 2015)。アマミノクロウサギは上記の通り保護増殖の法的措置が取られている上に、奄美群島のマスコットの存在であるため、軋轢を生みやすい状況であると言える。よって、軋轢がひどくなる前に有効な対策を講じるためには、アマミノクロウサギによる食害の実態を早急に明らかにする必要があると考えた。

### 方法

2017年11月から2018年3月まで、鹿児島県大島郡大和村の山間部にあるタンカン果樹園（横約150m×縦約160m）において、被害がひどかった樹木の前に自動撮影カメラを設置し、動画による記録を行った。さらに、同果樹園において2017年12月に果樹642本（21区画）を目視で確認し、新しい食痕の有無を記録した。

### 結果と考察

撮影した調査木では、アマミノクロウサギが樹皮をかじる様子が撮影された。枝や幹の外側の食痕は地上60cm、枝の内側は80cmまで確認された。内側は樹木に登った個体によって付けられていた。果樹園の目視調査では、642本中78本で新しい食痕が見られた。被害の程度には樹木間で違いが見られ、1cm<sup>2</sup>ほどのものから、幹一周樹皮がはがされていたものもあった。21区画中、10区画で被害が確認された。そのうち3区画では半数以上の果樹に被害が見られた。ただし、ほぼすべての果樹に半年以上前に受けたと考えられる古い被害の痕が見られた。最も被害の多い区画では、アマミノクロウサギの巣穴も確認された。

本調査によりアマミノクロウサギによるタンカン樹皮食害が確かめられた。樹形によっては登ることが可能であり、高い部分まで被害が起こることが明らかになった。アマミノクロウサギによる食害対策にはこのような身体能力について考慮する必要がある。

短期間で生じた被害は、ほぼ円形の果樹園内で周囲だけでなく中心部でも生じており、特定の場所と樹木に集中して生じていたことから、柑橘樹への選好性がある可能性が考えられる。一方で、過去に被害があった樹木は果樹園内に広く分布していたことから、選好性は樹木の成長状況や季節変化に応じている可能性がある。今後、被害度合や樹皮の成分などを含めた詳細な分析や季節・年変化などを調べ、アマミノクロウサギの生態や生理と関連した被害の実態について明らかにしていく必要がある。

### 引用文献

- Shackelford EG, Steward RP, German NR, Sait MS, Benton G.T. 2015. Conservation Planning in Agricultural Landscapes: Hotspots of Conflict between Agriculture and Nature. *Diversity and Distributions*, 21: 357–367.
- Watarai Y, Takatsuki S, Miyashita T. 2008. Effects of Exotic Mongoose (*Herpestes javanicus*) on the Native Fauna of Amami-Oshima Island, Southern Japan, Estimated by Distribution Patterns along the Historical Gradient of Mongoose Invasion. *Biological Invasions*, 10: 7–17.
- Watarai Y, Nishijima S, Fukasawa M, Yamada F, Abe S, Miyashita T. 2013. Evaluating the “Recovery Level” of Endangered Species without Prior Information before Alien Invasion. *Ecology and Evolution*, 3: 4711–4721.